

○ 今月のみことば

T.A

「闇の中を歩む民は、大いなる光を見、

死の影の地に住む者の上に、光が輝いた。」

(イザヤ予言23.9)

いろいろな行事が終わり、みんなの頭に浮かんで来るのはクリスマスでしょう。あなたはクリスマスについてどんなイメージをもっていますか。騒ぐ行事、プレゼント交換するなどでしょうか。クリスマスが近くとある話を思い出します。

何年もの間ロシアの国では宗教的な行事、祈り、ミサが禁じられていました。政府が変わった時二人のアメリカ人の宣教師がロシアに招かれ、聖書と道徳を教えるためにやってきました。どんなところにも行っていいと言われましたので、クリスマスのある孤児院に行くと子供たちは100人以上いました。この子どもたちはもちろんクリスマスの出来事を一度も聞いたことがありませんでした。マリアさまとヨセフさまが宿屋がなく、イエスさまが馬小屋で生まれたことなどを話している時、子供たちや孤児院で働いている方々は、みんな目ばたきひとつしなほほど真剣に聞いていました。

クリスマスが終わると、馬小屋を作らせるため、子供たちに小さな厚紙3枚と黄色紙1枚渡しました。みんなが、とても上手に作っていました。6歳のミシャンくんの作品を見ると、飼い葉おけに二人の赤ちゃんが寝かせてありました。アメリカ人の宣教師はロシア語を話せないの、通訳の人を呼んでミシャンくんはどうして二人の赤ちゃんが飼い葉おけにいるかを聞くように頼みました。すると、ミシャンくんは次のように言いました、マリアさまがイエスさまを飼い葉おけに寝かせた時、イエスさまがぼくを見つめて「君に、寝るところがありますか」と尋ねられました。それで、ぼくは「お父さんお母さんがいない、帰る家もない。」とイエスさまに言いましたら、イエスさまは「一緒に寝ていいよ。」と言われましたが、ぼくは、「イエスさまに差し上げるプレゼントがないから、一緒に寝られません。」と答えました。でも、ぼくは、「イエスさまといたいの、差し上げるものを何にも持っていないけど、イエスさまを温めることが出来る。」とイエスさまに伝えたら、イエスさまは「今までこんな素晴らしいプレゼントを貰ったことがない。」と、言って下さったので、飼い葉おけと一緒に入りました。それで、イエスさまはずっとずっとぼくと一緒にいる。またぼくもイエスさまと一緒にいていいと言われたので、一緒に寝ている。ミシャンくんの目は、涙いっぱいでした。ミシャンくんは、今まで、1人ぼっちでしたが、その日から、素晴らしい友を見つけました。

アメリカ人の宣教師はミシャンくんを通して、大事なことに気が付きました。大事なものは物ではなく、素晴らしい友と出会うことだと感動しました。

あなたは、この話を通して、どんなクリスマスを過ごしたいですか。あなたにとって何が大事ですか。あなたはどのような風にしたらイエスさまを温められるでしょうか。

生徒の心に語り掛けたいこと

A.A

私が愛徳学園で非常勤講師をさせていただいてから、まもなく三年が経とうとしています。高校二年・三年の選択授業を担当していますが、愛徳学園から次のステージに飛び立とうと考えている学年のみなさんとお話をしていると、私自身、いろいろと感じる事がたくさんあります。今後の進路を考え自分を見つめ始める者、進路実現にむけ自分のすべきことに打ち込む者、各々が自分の進路実現の過程にドキドキし、将来を想像してワクワクしている姿に、そばで見ている私は元気をもらい、悩んでいる時には何か伝えてあげたくなる…そんな毎日を送っています。



私が今、学校の図書館で借りている本は、渡辺和子著『忘れかけていた大切なこと』（PHP研究所）という本です。その中に、みなさんに、ぜひ伝えておきたい話が載っていたので、以下に紹介します。

曹洞宗の尼僧、青山俊董が書いた『禅のまなざし』（鈴木出版）という本の中に、「だいじょうぶの小石」というお話があります。仕事から病院に出入りを許されている一人の方が、掌に入るくらいの小さな小石をもってこれから手術を受けようとしている人に、その小石を握らせてあげるのだそうです。その小石には、平仮名で

「だいじょうぶ」と書いてあるので、それを握らせてもらった人は、「大丈夫なんですね。手術はうまくいくのですね。ありがとうございます」と喜びます。すると、その方は、「あなたが思っている通りになる大丈夫ではなくて、どちらに転んでも大丈夫、そういう大丈夫の小石なんですよ」とおっしゃるのだ、というお話なのです。

（中略）祈れば神が私の願い通りにしてくださる、病気を治してくださる、夫の怪我を治してくださる、子供の暴力を止めてくださる、というのではなく、どっちに転んでも大丈夫、神は悪いようにはなさないという信頼、腹のすわった心がまえ、そういうものをもって祈ることが大切なのだと気づいたのです。

みなさん、読んでみていかがでしたか。どのように感じましたか。私は「どっちに転んでも大丈夫」という考え方に深く共感しました。のちの人生で後悔しないよう、今、できることを一生懸命に取り組むことが大切なことなのだと、改めて実感しています。2018年も残すところわずかとなりました。来年も元気に笑顔で頑張っていきたいと思います。